

CPC 課題レポート

2023 年 5 月 10 日（水） 第 1393 回 CPC

92 番 岡野雄士

課題

1. 剖検が必要と考えられた根拠となった、臨床的な問題点を箇条書きで記しなさい。

- 原発不明癌（急速進行のため精査の時間を確保できなかった骨腫瘍）の精査
- 間質性肺炎の原因の精査

2. 病理解剖で認められた主要な所見を、箇条書きで記しなさい。

- 食道
 - － 2.1 × 1.2 cm の境界明瞭・潰瘍形成を呈する白色調腫瘤（固有筋層を主座にして外膜にまで至る）
 - － リンパ節転移所見
- 肺
 - － 鬱血所見（790 g, 944 g）
 - － 多発白色小结節
 - － 断面の類臓器様所見
 - － 右側胸膜の癒着・肥厚所見
 - － 右肺の一部に硝子膜形成
 - － 左肺に器質化所見と一部硝子膜形成
 - － 微小な扁平上皮癌の転移所見
- 右胸膜
 - － 癌の浸潤所見
- 肝臓
 - － 鬱血所見（1429 g）
 - － 白色小结節
 - － 1.4 cm 大の癌の転移所見
 - － 癌の微小な多発転移所見
- 心臓
 - － 求心性肥大所見
 - － 0.1 cm 大の癌の転移所見
- 骨髄
 - － 癌の転移所見

- 腎臓
 - 鬱血所見（281 g, 247 g）
- 脾臓
 - 敗血症を示唆する所見なし
- 大動脈
 - 軽度の粥状硬化症

3. 臨床的な問題点が病理解剖によりどのように解決したか、文章で説明しなさい。

右肩甲骨生検検体の病理診断により、扁平上皮癌の骨転移が確認された。剖検にて腫瘍所見が確認された臓器においては、食道または肺が扁平上皮癌の原発巣として一般的であるが、食道病変には低分化な扁平上皮癌だけでなく異形成相当や上皮内癌などが混在しており原発巣を疑うべき多様な組織像を呈した。一方で、肺病変は転移巣を窺わせる均一な多数の微小腫瘍結節からなっていたことから、原発巣は食道であると判断された。また、直接の死因としては瀰漫性肺胞障害による呼吸不全であると判断された。

4. 本症例が死に至った病態について、自分が理解した内容を文章で説明しなさい。

食道癌が骨転移することで右肩痛を契機として発見されたが、すでにリンパ節転移を呈するなど病態が進行しており、嚥下障害や嘔声などの症状が見られるようになっていた。さらに、肺転移・胸膜転移によって胸水の貯留を来し、胸腔穿刺を実施することとなった。肺転移に加えて肺気腫を呈していたことから、前景として喫煙の影響があったことが推測される。これらの状態に加えて、左気管支肺炎による瀰漫性肺胞障害が引き金となり、呼吸不全に至り、死亡したと考えられる。